

## 養殖水産動物に抗菌性物質が投与された場合に選択される 薬剤耐性菌の食品健康影響評価について

### 1. 経緯

- 2003年12月8日：評価要請
- 2019年2月21日：第19回薬剤耐性菌WG（非公開）
- 2019年9月2日：第22回薬剤耐性菌WG（今後の進め方について審議）
- 2021年11月10日：第35回薬剤耐性菌WG（トライアルキックオフ）
- 2022年2月7日：第37回薬剤耐性菌WG（トライアル①）
- 2022年3月10日：第38回薬剤耐性菌WG（トライアル②）
- 2022年5月30日：薬剤耐性菌WG打合せ会（内部調整）
- 2022年10月27日：第41回薬剤耐性菌WG（トライアル③）
- 2022年12月5日：第42回薬剤耐性菌WG（トライアル④）

### 2. 評価要請事項

以下の抗菌性物質が動物用医薬品として家畜等（養殖水産動物）に投与された場合に選択される薬剤耐性菌の食品健康影響評価

- ・マクロライド系抗生物質
- ・テトラサイクリン系抗生物質
- ・スルホンアミド系合成抗菌剤

### 3. 目標

養殖水産動物に抗菌性物質を使用した際に選択される薬剤耐性菌の食品健康評価の手法の確立を目指す。同時に評価に必要な情報も特定する。

### 4. 留意事項

- ・環境については、評価の対象とはしないこととしていたが、無視できないことがトライアルで判明したため、可能な範囲で考慮する。
- ・耐性遺伝子に関する知見は限られていることから、まずは耐性菌について評価を行い、可能な範囲で耐性遺伝子に関する知見についても考慮する。

### 5. 前回の薬剤耐性菌WGまでの結論

ぶり類に使用されるマクロライド系抗菌性物質によって選択される薬剤耐性菌について食品健康影響評価のトライアルを開始。テトラサイクリン系及びスルホンアミド系抗菌性物質を養殖水産魚に使用した場合も含めてハザードの特定までトライアルが完了した。

## 6. 第 42 回薬剤耐性菌 WG における審議

今回は、*Vibrio parahaemolyticus* をハザードとして仮置きした上で食品健康影響評価のトライアルを完遂し、現行の評価指針が養殖水産動物における薬剤耐性菌の評価に適用できるか審議する。

現行の評価指針に追加や変更すべき考え方があるか、それに付随して評価に必要な情報は何か、審議を行い特定する。

トライアルに使用する評価書案として資料 3 を作成した。また、今までトライアルにおいて特定された評価指針に追加すべき又は変更すべき考え方を資料 4 としてまとめた。